

国税庁 調査査察部  
調査課 国際調査管理官

## 安井 欧貴

平成9年入庁

## 国際課税というミッション

### 国際協調と調査の現場をつなぐ

国際課税は企業のグローバル・ビジネスを対象とするもので、ビジネスに国境が無くなるなか、税務調査は国外で行うことができないため、国際課税の分野で適正公平な課税を確保することには多くの困難が伴います。この困難を克服すべく私たちは人や組織を動かすわけですが、そのフィールドは国税局の調査の現場から国際会議の議論の場まで、幅広いものになります。

例えば、数年前、多国籍企業が世界規模でアグレッシブなタックスプランニングを展開することによる“BEPS”（ベップス：Base Erosion and Profit Shifting [税源浸食と利益移転]—多国籍企業が各国で多額の利益を上げながらどの国にも相応の納税をしていない問題—）が各国で認識されるようになり、国際的に対応策が議論されたのですが、この議論の過程においては日本の課税権や国益を確保することも念頭に各国の税務当局者と協議をし、合意が実現した現在は日本の調査の現場におけるその履行に責任を負っています。



### 議論の対象となる判断を担う

スマホにダウンロードして音楽を聴いたりゲームをするとき、配信（販売）しているのが外国の法人であればその法人は日本で消費税の申告義務があります。こうした外国法人を調査するのも国際課税の一面ですし、また、日本の大企業がグローバルに展開するビジネスについて、親子間や子会社間で行われるグループ内取引を調査するのも国際課税の重要な一面です。

国際課税が経済・社会に及ぼす影響が大きいため、その制度や執行は多くの実務家やコンサルタントに注目され、学者の研究対象にもなっています。国税庁の方針として自分が判断することが多くの人たちの関心や分析の対象となるという立場には大きな責任が伴い、こうした責任を担っていくことはキャリアを賭す場としてやりがいのある環境だと感じます。

志高く次世代の日本を担う皆さんの入庁を心から期待しています。

国税庁 調査査察部  
査察課課長補佐（総括）

## 下野 哲史

平成11年入庁

## 巨悪は眠らせない

### 査察（マルサ）とは

査察（マルサ）の任務は、悪質な脱税者に対して、裁判所の許可状に基づき、捜索・差押えなどの強制調査を行い、検察官に告発し、その刑事責任を追及することである。

全国の国税局査察部には約1,500名の査察官が在籍し、法務・検察当局との緊密な連携の下、申告納税制度の「最後の砦」として、課税の公平性を担保する役割を果たしてきた。国税庁査察課は、その司令塔として、国税局査察部が手がける事件の執行を指導・監督する。

### 現場の「使命感」

国税局査察部の現場においては、テレビ、新聞・雑誌などの一般情報や部外情報（いわゆるタレコミ）、犯罪収益移転防止法に基づいて警察庁から入手する取引情報など、日夜あらゆる情報を収集し、その分析を行っている。

膨大な資料・情報の「海」の中から、脱税の嫌疑が浮かび上がれば、尾行や張り込みなどの内偵調査を行い、脱税の嫌疑が固まると、資金の流れなどを解明するため、裁判所の許可状に基づき強制調査を行うことになる。この強制調査は、複数の関係箇所を一齐に捜索するため、着手当日に100名以上の査察官を一齐に投入することもある。

差し押さえた証拠物件は、丹念に精査され、査察官は証拠を基に嫌疑者を追及する。現場査察官たちの日々の奮闘は、華々しいメディア報道の影で伝えられることはないが、彼らの地道な作業の積み重ねによって事件の全容が次第に明らかになっていく。

複雑かつ困難な事件ともなれば、内偵から告発まで2~3年

の期間を要することもあるが、査察官を支えるのは、「巨悪は眠らせない」という強い「使命感」と熱い「正義感」に他ならない。

### ヘッドクォーターとして

マルサの現場で長年にわたり培ってきた伝統的な調査手法に頼るだけでは、近年急速に進む脱税事件の国際化やICT化には対応できない。

国税庁査察課では、租税条約に基づく海外当局との情報交換によって外国口座情報などを入手したり、証拠保全の基本とされるPC・スマホの削除データ復元などのために最先端の情報解析機材の導入などを進めてきたが、時代の変化に対応できる新しい法制度のあり方について中長期的な視点から検討していくことも必要である。

国税庁で働くということは、自らの経験や知見を生かして知恵を絞り、「ヘッドクォーターとして、現場をどのように支えていくのか」ということでもある。

マルサの現場に底流する強い「使命感」と熱い「正義感」に少しでも関心を持って頂けたなら、国税庁の門を叩いてください。限りなく広大なフィールドが皆さんを待っています。

